



## 令和 6 年度 前期学校評価アンケート結果報告

### 1 実施期間

令和 6 年 9 月 2 日～9 月 13 日

### 2 対象

保護者（小学部、中学部、高等部）

児童生徒（小学部、中学部、高等部）

教職員（管理職を除く全教職員）

### 3 実施方法

- 保護者・・・各項目について「実現度」を 5 段階で回答  
紙媒体での回答もしくはアンケートフォーム
- 児童生徒・・・各項目について「実現度」を 3 段階で回答  
紙媒体での回答もしくはアンケートフォーム
- 教職員・・・各項目について「実現度」を 5 段階で回答  
アンケートフォームでの回答

### 4 回答率

	保護者 224	児童生徒 224	教職員 156
回答数	151	56	145
回答率	67%	25%	93%

#### [保護者]

昨年度はアンケートフォームのみの実施（全 22 項目）で、前期 51%、後期 49%の回答率であった。今年度は、実施方法を紙媒体もしくはアンケートフォームで回答できるよう実施し、アンケート項目も紙媒体の場合、A 4 サイズ 1 枚に収まる程度に精選し、まずは保護者の皆様にとって答えやすいかつアンケート自体に興味・関心を持っていただけるよう試みた。回答方法に紙媒体を戻したことや回答形式を複数提示したことが回答率アップにつながったように感じる。

（アンケートフォームによる回答にかかった時間の平均：2 分 21 秒）

#### [教職員]

教職員は、昨年度同様にアンケートフォームからのみの回答としたため比較的スムーズに進めることができた。特別非常勤講師など一部を除く教職員については、概ね全員の回答を得ることができた。

## 5 アンケート項目について

「令和6年度京都市立呉竹総合支援学校グランドデザイン」に沿って、選択形式と自由記述でアンケートを作成した。

今年度、学校教育目標である「社会参加し、自分らしく生き生きと活動したいという児童生徒の願いの実現」を目指し、大切にしたい4つの言葉として「やってみたい」「ありがとう」「なんとかなる」「自分らしく」を掲げている。新校舎への移転や解体工事、新設工事が続いていく中、環境面においては活動場所の確保等課題はあるものの、新たな場所で呉竹の子どもたちの強みを生かし、地域とともに成長できる学校運営を目指して、学校評価アンケートを実施していきたい。



## 6-1 実現度に関する分析結果〔保護者、教職員〕

表では、保護者（各部、全体）・教職員のアンケート結果より、肯定的な選択項目となる「よくできている」「大体よくできている」の回答を合わせた割合（％）を示す。

保護者、教職員ともに同じ質問項目である 1～11 については、概ね 90％を超える結果となった。各項目の分析結果についても表に示す。

質問項目	実現度				
	小	中	高	保護者 (全)	教職員
1.学校は、子どもたちの思いや反応をていねいに受け止められている	98	97	95	97	96
<b>分析結果</b> 保護者、教職員ともに 95％を超える結果となった。周囲に伝える手段は児童生徒個々に異なるため、引き続きていねいに受け止める姿勢を大切に、「伝わった。分かってもらえた。」といった成功体験を積み重ねていくことで、発信力向上にもつなげていきたい。					
2.学校は、子どもたちがいろいろな人と関わって活動できるように取り組んでいる	92	100	97	96	96
<b>分析結果</b> 保護者、教職員ともに 90％を超える結果となった。各部、縦割りのユニット学習や交流学习等を取り入れながら様々な活動に取り組んでいる。引き続き縦横のつながりを大切に、卒業後の地域社会で自分らしく過ごしていけるよう経験を積み重ねていきたい。					
3.学校は、子どもたちが「やってみたい」と思える学習に取り組んでいる	92	89	90	90	93
<b>分析結果</b> 子どもたちの思いや反応をていねいに受け止めることが、目の前の子どもたちを理解し「やってみたい」と思える活動につなげていくことができる。90％前後と概ね肯定的な結果となっているが、子どもたち一人一人の主体的に学びに向かう姿勢を引き出せる授業づくりに引き続き取り組んでいきたい。					
4.学校は、子どもたちが自分なりの方法で思いや考えを伝えられるように取り組んでいる	92	92	96	93	98
<b>分析結果</b> 保護者、教職員ともに 90％を超える結果となった。引き続き「伝えたい」と思える関係づくりや授業づくりに取り組み、絵カードや ICT 機器などのツールも活用しながら、人や場所が変わっても「自分なりの」という視点を大切にしていきたい。					
5.学校は、子どもたちの願いや目指す姿を本人や保護者と共有している	98	97	95	97	93
<b>分析結果</b> 保護者について、各部 95％以上の回答結果となった。家庭訪問や前期/後期懇談会だけではなく、日頃から「現在の姿」や「目指す姿」を共有し、後期に向けては次年度（卒業後を含む）への引き継ぎという視点も含めて“共有”を大切にしていきたい。					

6.学校は、子どもたちが役割を担い、やりがいを感じて活動できるように取り組んでいる	96	95	91	94	96
<b>分析結果</b> 保護者、教職員ともに90%を超える肯定的な回答結果となっている。“やりがい”という抽象的な概念を自分の言葉で相手に伝えることは難しいため、参観日等で実際に子どもたちの様子を見ていただける機会を適切に設定していくことが必要である。今年度、数年ぶりに保護者を対象とした給食説明・試食会や給食参観も実施し、これまであまり見る機会のなかった様子も発信できた。生き生きと活動に取り組んでいる姿など、子どもたちの「できる姿」を引き続き共有していきたい。					
7.子どもたちは、自分なりの挨拶（発声、会釈、瞬き等の反応など）を実践できている	94	94	87	92	97
<b>分析結果</b> 概ね実現度の高い肯定的な回答結果となっているが、高等部については他学部よりやや低い結果となり、自由記述では「挨拶」や「マナー」等のキーワードが目立った。高等部では、卒業後を見据えて見学や実習等にも取り組んでおり、地域社会で生きていく子どもたちをより現実的に想像し捉えた結果のようにも感じる。「自分なりの挨拶」という視点を大切にしながら継続して取り組んでいきたい。					
8.学校は、子どもたちがルールや約束を守ることの大切さを学べるように取り組んでいる	96	92	96	95	93
<b>分析結果</b> 保護者、教職員ともに90%を超える回答結果となっている。ここでは“卒業後の生活を見据えて”という視点も大切になってくる。校内での取組で終わることなく、身に付けた力をどこでどう発揮していくのか、学校で身に付けた力を地域社会で発揮できるよう、教職員との関わりだけではなく様々な社会資源も活用しながら取り組んでいくことが求められる。					
9.学校は、お便りやホームページなどを通して日々の教育活動を発信できている	98	100	95	98	90
<b>分析結果</b> 保護者はいずれも95%以上の結果であり、自由記述からは、日頃の様子を離れて暮らす家族にも知ってもらえている等の肯定的な記述も見られた。保護者への発信については、連絡ツールアプリ「すぐる」を導入し全体で90%以上の登録をさせていただいており、お便りだけでなく宿泊学習や修学旅行の様子を学年単位で配信する等にも活用している。印刷等の負担も大幅に減少し、教職員にとっては働き方改革にもつながっている。引き続き配信や配布を使い分けながら日頃の様子を発信していきたい。					
10.学校は、外部関係機関や地域との連携を大切にしている	86	86	80	84	87
<b>分析結果</b> 他の項目と比べると「わからない」といった回答が多く、保護者、教職員ともに肯定的な回答がやや低い結果となった。関係機関との連携については、個人による差も回答に影響しているように思われる。また自由記述では、外部資源等を活用した「交流の機会の拡大」を期待する内容や、その先にある「障害に対する理解」がもっと広がってほしいといった願いも読み取れた。ホームページ等で活動を発信したり、外部資源を活用することで子どもたちの様子を知っていただくという視点も					

大切になってくるため、意識的に活動に取り入れながら、また外部資源の活用事例等を校内や他校とも共有することで活動の幅を広げていけると考える。					
11.学校は、子どもたちが安心・安全に学べる場となっている	98	97	97	97	95
<b>分析結果</b> 今年度は、新校舎への移転があり変化の大きい年となった。慣れない環境に対する「不安」を心配したが、比較的スムーズに移行できたように感じている。解体工事や新設工事はまだ続くため、引き続き子どもたちの心身の変化や日々の体調管理に心を配り、スクールカウンセラーの活用や保健室とも連携を図りながら、また子どもたち自身の自分の心や身体を大切にしようとする気持ちも育んでいきたい。					

項目 12～16 については、教職員を対象に回答を求めた。学校教育目標における「重点的取組」より、専門性の向上や地域連携の他、業務改善や自身のライフ・ワークバランス等の働き方に関わる質問項目を生成した。以下、項目 1～11 同様に肯定的な選択項目となる「よくできている」「大体よくできている」の回答を合わせた割合（％）を示す。

12.生活を豊かにする手段として、情報端末機器を積極的に活用している					85
<b>分析結果</b> 分掌により使用頻度が異なることが実現度に影響しているように思われる。スマートフォン等 ICT 機器の普及により、児童生徒は機械操作に長けており、抵抗感なく意欲的に触れようとする姿も伺える。専門性向上を目指した校内研修（希望者）として、外部講師による「ICT 学習会」を月に 1 回の頻度で実施している。若手、中堅、ベテランと様々な年代の教員が、意欲的に参加している姿が毎回見られる。学習効果を高め、子どもたちの主体的な姿を引き出していけるよう、引き続き教職員の専門性向上に努めていきたい。					
13.子どもたちが何を学び、何ができるようになったのかを評価し、授業改善につなげている					85
<b>分析結果</b> 個々の業務内容も影響しているが、授業者と他の教職員（学年主任や学部長等）との相違も見られた。適切な目標設定のもと授業を組み立てていくためには、主観に頼らず担当者間で状況共有や視点を統一しておくことが必要になる。働き方改革の昨今、限られた時間の中で効率的かつ中身の濃い時間を設定できるよう、学校全体で会議等の見直しの検討も進めていく必要がある。					
14.地域の学校園・施設等への支援など育支援センターとしての役割を果たしている					77
<b>分析結果</b> 実現度について、20%以上が「わからない」と回答している。外部関係機関との連携や学校見学への対応、小学校等への巡回訪問や就学前の保護者や小・中学校の先生方からの相談など業務は多岐にわたる。特別支援学校におけるセンター的機能を十分に果たせるよう取り組んでいるが、日々の取組を全教職員が把握するには至っていない。一人一人がすべての業務を把握することは難しいが、センター的機能の役割は全教職員が担うべきものであることの意識は再認識する必要がある。					

15.組織的・効率的な業務の見直しに向けて、意見交換し合える風通しのよい職場である					81
<b>分析結果</b> 「あまりできていない」「わからない」といった回答が各部署から挙がっていた。電話対応時間、門の開閉時間、保護者連絡ツール「すぐーる」の導入、校務支援員の活用など取り組んでいるが、勤務時間は減少していても、持ち帰りの仕事があったり等、個人の業務自体に明らかな変化が見られないといった辺りが実現度に影響していると思われる。また、業務量だけでなく、心理的な負担といった側面も自由記述から読み取れる。引き続き、会議の精選や必要資料の見直し、各種業務の役割分担等、個人に偏りすぎずチームとして学年・学部・学校運営をしていけるよう検討を続けていきたい。					
16.ライフ・ワークバランスを意識できている					73
<b>分析結果</b> 実現度については、項目 15 と連動しているように感じる結果となった。ライフ・ワークバランスの充実を図るために心身の健康は欠かせない。日々の業務を一人で抱え込むことなく、スクールカウンセラーの活用や保健室との連携等も含め、悩みを相談できる環境も大切にしながら引き続き取り組んでいきたい。					

## 6-2 実現度に関する分析結果〔児童生徒〕

児童生徒へは、アンケートフォームもしくは紙媒体での回答を求めた。回答は「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」の3段階から選ぶ形をとった。児童生徒の実態に応じて、本人による回答、担任による聞き取りでの回答等で行っている。

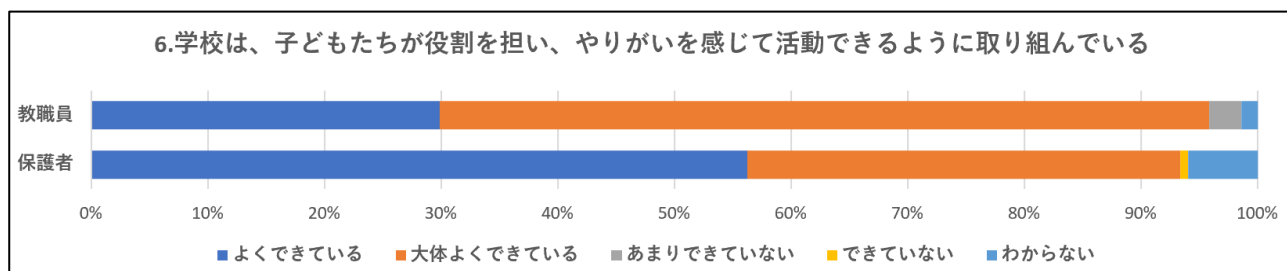
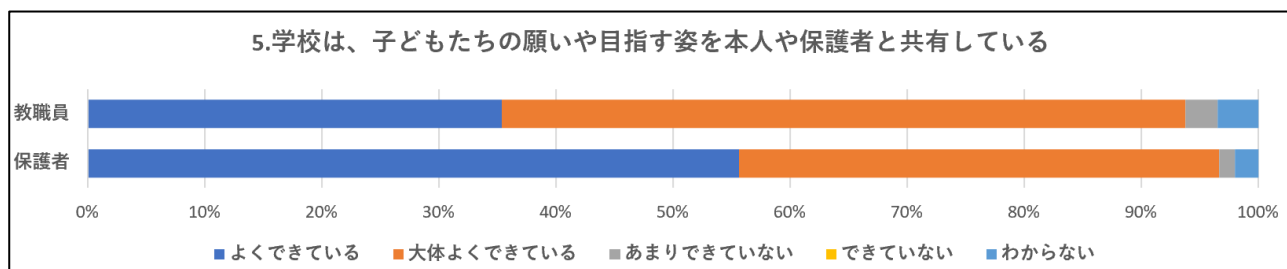
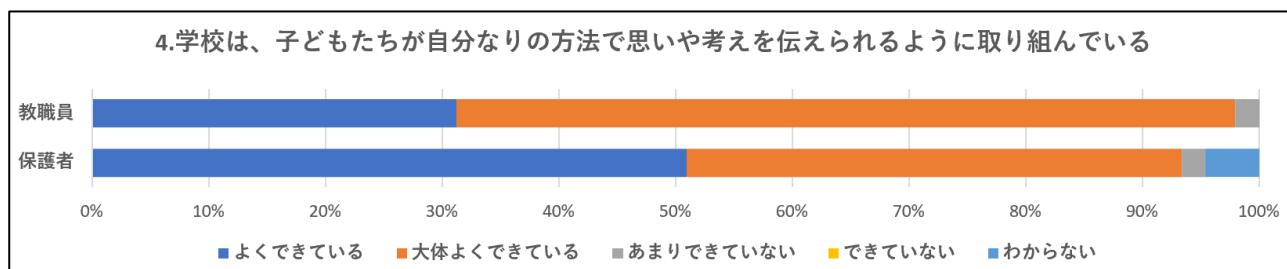
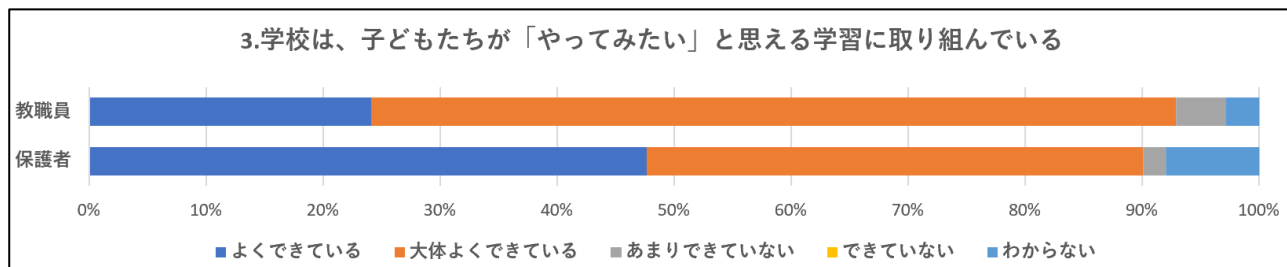
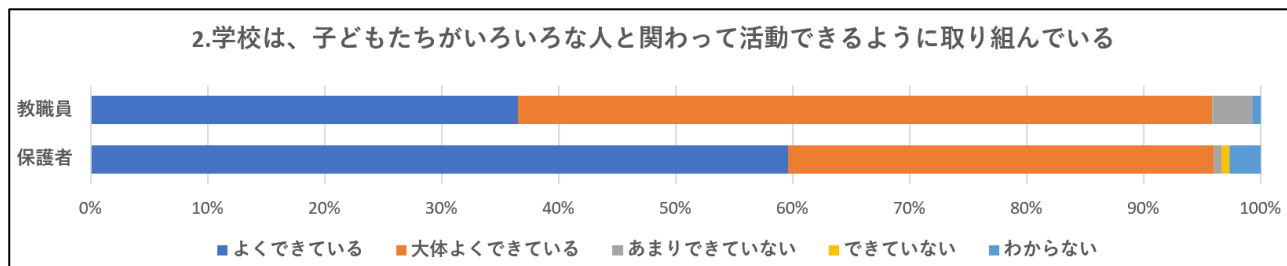
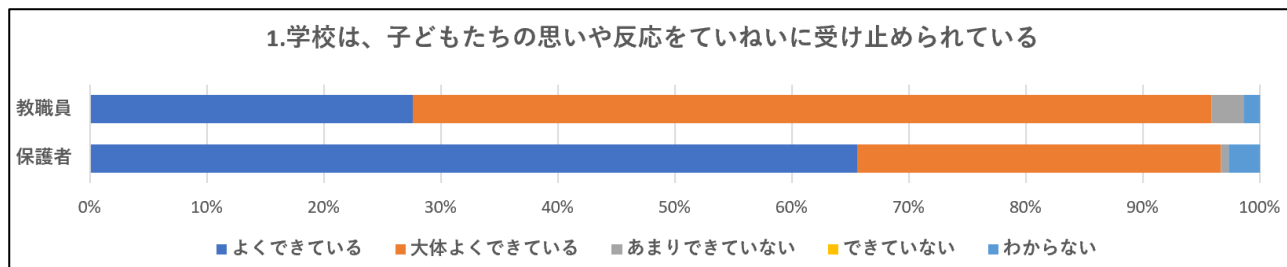
表では、児童生徒のアンケート結果より、小学部・中学部・高等部の「そう思う」の回答を合わせた割合（％）を示す。

	そう思う
1.自分の心や体を大切にしている	68
2.友達と仲良く過ごせている	89
3.学校で「やってみたい」と思える活動がある	63
4.困った時など先生に相談している	70
5.こんな自分になりたいという願いや夢をもっている	66
6.学校で決まった役割がある	75
7.自分なりの方法であいさつができています	75
8.ルールや約束を守って行動できている	77
9.授業や活動の内容が理解できている	73

### 分析結果

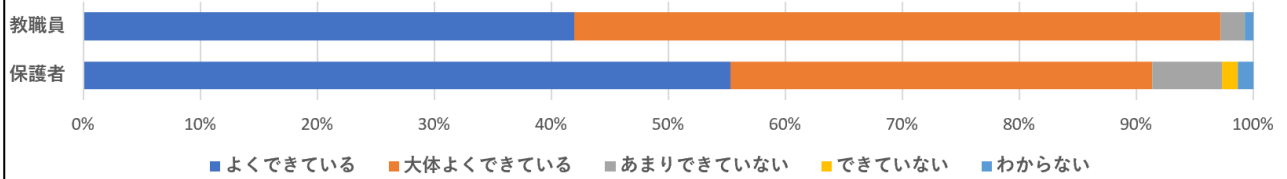
今年度、大切にしたい言葉として「やってみたい」「ありがとう」「なんとかなる」「自分らしく」を掲げており、各項目に関連してくる要素である。「やってみたい」と思える活動を通して、「できた」と思える成功体験を積み重ね、縦割りユニットや学年での活動、地域との協働活動等の中で「自分らしく」を発揮し、他者との関りを通して「ありがとう」の言葉を浴びながら自己肯定感を育み、「なんとかなる。やってみよう！」と学びに向かう力等につなげていけるよう、引き続きご家庭や地域と連携しながら教育活動を実施していきたい。

## 7-1 実現度比較

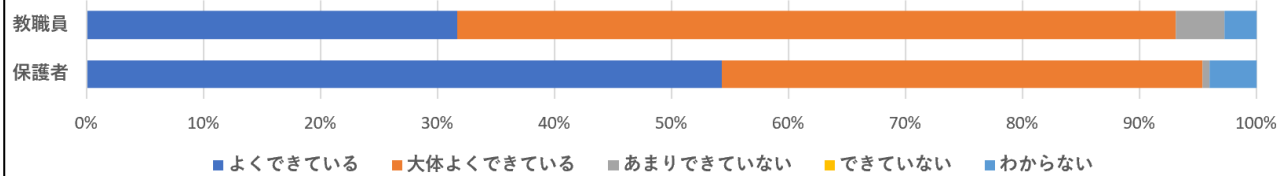




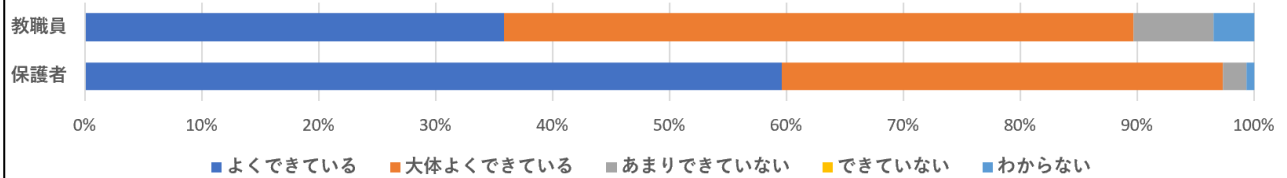
7.子どもたちは、自分なりの挨拶（発声、会釈、瞬き等の反応など）を実践できている



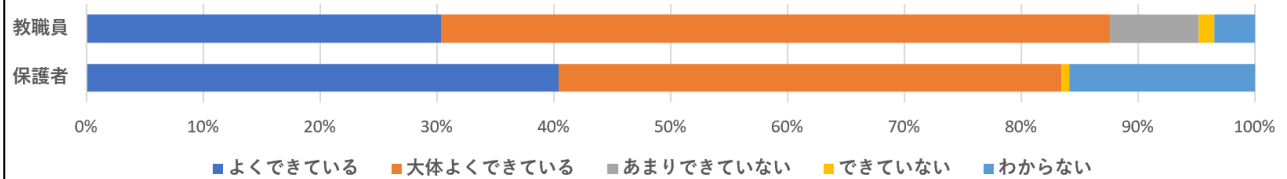
8.学校は、子どもたちがルールや約束を守ることの大切さを学べるように取り組んでいる



9.学校は、お便りやホームページなどを通して日々の教育活動を発信できている



10.学校は、外部関係機関や地域との連携を大切にしている



11.学校は、子どもたちが安心・安全に学べる場となっている

